

花の種蒔き実習後の生育状況観察記録

2024/3/22～

報告者: 44期 園芸学科 加納 藤太郎

2024年3月 選択学科「花の種まき」授業実習で使用した5種類の花(メランポディウム、百日草、日日草、コリウス、ペチュニア)を蒔いた時期が例年に比べ気温が低く発芽できなかった主たる要因の中、順調に生育した状況を生徒全員で情報共有を図るため、花の種まき後の生育状況を観察した記録である。

1. 観察花一覧

No.	項目	科名	原産地	花言葉	種まき	発芽温度	生育温度	発芽日数	発芽環境要素	育て方
1	メランポディウム	キク科	アメリカ	元気	春まき	20～30℃	15～30℃	7～10日	嫌光性種子 覆土	光線に十分に当て、多湿を避けて育苗。日当たりと水はけのよい場所で、株間20～30cm間隔で植えかえる
2	百日草	キク科	メキシコ	不在の友を思う	春～夏まき	20℃前後	20～30℃	5～7日	嫌光性種子 覆土	発芽後は薄い液肥を与え、本葉3～4枚の頃植替。株間25～30cm間隔。鉢植え4～5号鉢に1本。日当たりと水はけの良い場所。
3	日日草	キョウチクトウ科	マダガスカル、ブラジル	友情、楽しい思い出	春まき	20～25℃	15～30℃	10～15日	嫌光性種子 覆土	発芽後も、保温に努め、薄い液肥を与え本葉4～5枚で植替える。鉢植えは5～6号鉢に1本。肥料不足は葉色が淡くなり花も小さく
4	コリウス	シソ科	東南アジア	絶望の恋、善良な家風	春まき	20～25℃	15～30℃	8～10日	好光性種子	本葉2～4枚で仮植え、6～8枚で植え替え。秋に霜がおりるまで長期間楽しめる。
5	ペチュニア	ナス科	ブラジル、アルゼンチン	心やすらぐ	春・秋まき	25℃前後	10～30℃	7～10日	好光性種子	本葉3～4枚で、ポリ鉢に植えて苗を育て、1番花が咲く頃に花壇や鉢、プランターに植替え。長雨に弱い。

	R6.4.14	R6.4.17	R6.4.20	R6.4.22
	鉢上げ	日日草鉢上げ	2回目の移植	移植状況/消毒
メランポディウム				
百日草				
日日草	鉢上げ不可			
コリウス				
ペチュニア				
		R6.4.14時点では、鉢上げ不可であったが、日光に当てて、発育を促し、R6.4.17鉢上げができた。	日日草は、発芽率が不良で、発芽時期が遅く、最後に発芽したものを移植した。(2回目) コリウス・ペチュニア2回目の移植を行なった。	苗葉に虫食いが見られたので、「スミチオン乳剤」を散布。

	R6.4.24	R6.4.27	R6.5.6
	肥料	害虫防止箱作成	生育状況
メランポディウム			
百日草			
日日草			
コリウス			
ペチュニア	鉢上げ不可		
	肥料散布 ■ 萬田酵素 ■ 肥料: 8・8・8	害虫に花の苗が食い荒らされたので、角材で木枠を制作し、全体を防虫網で覆い、その中に苗箱を搬入した。	メランポディウム: 百日草と同様であるが、回復状況が悪い。 移植後、害虫による被害が酷く、一時全滅する状態になったが、消毒等で回復し 害虫による被害は殆どなく順調に生育 順調に生育中 生育不良ほぼ全滅

	R6.5.13	R6.5.17	R6.5.20
	植え替え	花芽付く	植え替え
メランポディウム			
百日草			
日日草			
コリウス			
ペチュニア			
		メランポディウムに花芽がつけました	培養土から、花の特性にあわせた用土に植え替え作業をした。 用意したもの: 赤玉土細粒、腐葉土、酸度調整済ビートモス、牛ふん ポリポット規格: 9cm、10.5cm、12cm

	R6.5.22
メランポディウム	
百日草	
日日草	
コリウス	
ペチュニア	鉢上げ不可